

# 養豚業者 不安募る

## いなべで豚コレラ疑い「国や県、支援を」

いなべ市の養豚場で二十一日に死んだ豚が、県の検査で家畜伝染病「豚コレラ」の陽性となった。国が精密な診断を進めており、結果が出る二十四日以降に感染が確定すれば、飼育豚で県内で初めての感染となる。市内で先月、野生イノシシの感染が確認されて以降、農家や県などが養豚場への感染防止に懸命の努力を続けており、生産者らは不安を募らせている。

(森耕一、鈴木雄大、高尾碧)

県は養豚場からの通報を受けて独自に検査し、国にも通報。農業・食品産業技術総合研究機構（東京都）も二十三日に遺伝子検査をし豚コレラウイルスの遺伝子を検出したものの、一緒に飼育する豚に食欲不振などの明確な症状が出ていないため、専門家から「殺処分は重い判断なので、より詳細な検討が必要だ」と指摘を受け、二十四日に追加検査することになった。先月中旬、県境近くの岐

### ◆県内の豚コレラ感染を巡る経緯

- 6月14日 県境から1.5kmの岐阜県養老町で感染イノシシが見つかったことを受け、県内全ての養豚場に対し県が消毒命令
- 26日 いなべ市で野生イノシシ2頭の感染を確認
- 7月1日 市内で新たに野生イノシシ2頭の感染を確認
- 5日 市内の監視対象農場の周辺5カ所でワクチン散布を先行実施
- 16日 感染イノシシの発見場所から10km圏にあるいなべ、桑名、菟野の3市町でワクチン散布を本格的に開始。20日までに計195カ所で散布

阜原側で感染した野生イノシシが見つかったことで以降、県は、県内五十八の養豚場に消毒石炭による消毒命令を出し、イノシシへのワクチン散布するなど、養豚場への

感染阻止に注力してきた。特に今回感染した農場では周囲に柵を巡らせており、県畜産課の担当者も「イノシシの侵入は不可能ではないか」と話す。JA全農みえでも、イノシシ侵入を防ぐ柵の設置をなど対策を生産者に呼び掛けてきた。担当者は「残念ながら感染拡大の不安が次の段階に進んでしまった。これまでの対策を徹底するだけでなく、新たな防止対策を検討する必要がある」

と危機感を強めた。

県内で五十年にわたって養豚業を営む男性（60）は「ひとこととは思えない。検査結果を待つ農家の気持ちを考えるといたたまれない」と語り、「不安を小さくするために、国や県にはできる限りの支援をしてほしい」と求めた。

いなべ市に隣接する四日市市の食肉地方卸売市場には昨年度、いなべ市から豚七千二百六十五頭が出荷された。四日市市の森智広市長は二十三日、定例会見で「細心の注意を払いたい。いなべ市の豚の出荷が止まれば、市場の収益減で経営に影響」と懸念を表明した。